

# 韓国の対中国東北三省の貿易推移と構造的変化 — 韓中国交樹立20周年を機に —

韓国対外経済政策研究院 (KIEP) 中国地域研究グループ研究員 林珉環

## 1. はじめに

2012年8月24日は、韓中国交樹立20周年を迎える記念すべき日であった。歴史的にみて、両国は同じ文化圏にあり、中国の政治・経済・思想などは、朝鮮半島の歴史に莫大な影響を与えてきた。とりわけ、中国東北地域と朝鮮半島が接する国境線（およそ1,318km）は、両国の関係において特別な意味を持つ。同地域は朝鮮半島の領土戦争の舞台であり、中世と近世における対中国の朝貢貿易のルートであり、日本の植民地時代における朝鮮半島の海外独立運動の根拠地であった。理念の対立が極まった朝鮮戦争の際にも、中国遼寧省丹東（当時の名称は安東）は中国人民解放軍が北朝鮮軍を支援するための兵站前線としての役割を果たした。このように、中国東北地域と朝鮮半島は歴史的に深い関わりを持っている。

本稿では、韓中国交樹立20周年を機に、韓国の対中国貿易における東北三省の貿易推移及び構造的変化を分析する。なお、利用可能なデータとして韓国貿易協会編「中国貿易統計」を用いて、推移期間を1998年から2011年までの14年間とした。本稿の焦点は韓中国交樹立以降の韓国の対東北三省貿易の構造的変化を分析することにある。

## 2. 韓国の対東北三省の貿易推移

### 2.1. 東北三省の概況

東北三省は中国の東北部に位置する遼寧省、吉林省、黒龍江省の3省を指す。東北三省は北朝鮮、ロシアと国境を接し、モンゴルと近接することから、政治的にも重要な地域である。東北三省の総面積は約79万km<sup>2</sup>で、中国全体の約8.2%を占めており、総人口は約1億954万人で、中国全体の約8%を占める。2003年に「東北振興戦略」が実施されて以来、東北三省の経済成長率は毎年10%以上の高成長を続けてきた。

### 2.2. 韓国の対東北三省の貿易推移と現状

1998年以来、世界金融危機が勃発した2009年を除いて、韓国の対東北三省の貿易規模は成長を続けてきた。図2に示すように、韓国の対東北三省の貿易額は1998年の約22億ドルから2011年の約100億ドルまでに増加した。しかし、貿易収支をみると、当初の1998年からほぼ赤字になってい

図1 東北三省の位置



(出所) KIEP中国地域研究グループ作成

表1 東北三省の主要経済指標 (2011年)

項目	遼寧省	吉林省	黒龍江省	東北三省
面積 (万km <sup>2</sup> )	14.8	18.7	45.4	78.9
人口 (万人)	4,375	2,746	3,833	10,954
GRPまたはGDP(10億元)	2,225	1,531	1,250	5,006
一人当たりGRPまたはGDP (元)	50,299	38,321	32,540	45,700
消費財売上高(10億元)	800	412	471	1,683
都市住民一人当たり可処分所得 (元)	20,467	17,797	15,696	-
農村住民一人当たり純収入(元)*	6,908	6,237	6,210	-
固定資産投資額(10億元)	1,773	744	752	3,269
輸出入総額(億ドル)	960	220	385	1,565
輸出額 (億ドル)	510	50	177	737
輸入額 (億ドル)	460	170	208	838
FDI(実行ベース、億ドル)	243	15	35	293

(注1) \*は2010年の数値を表す。

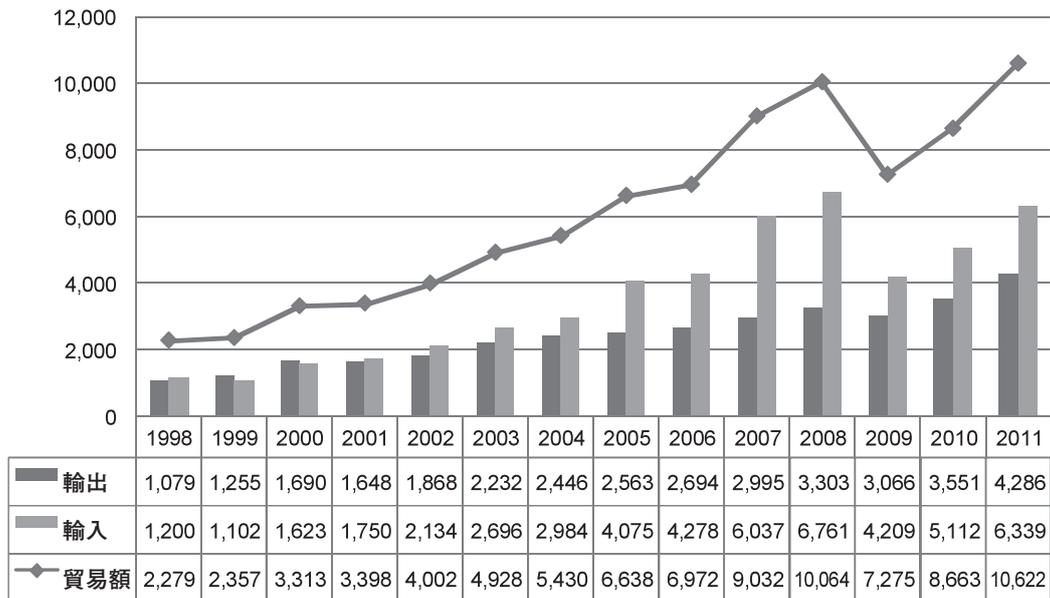
(注2) 東北三省の一人当たりGRPは、各3省のGRPの合計を東北三省の総人口数で割ったもの。

(出所) CEIC、「2011年遼寧省国民経済・社会発展統計公報」、「2011年吉林省国民経済・社会発展統計公報」、「2011年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報」より作成

る。韓国と東北三省間の貿易規模が増加するにつれて、貿易収支の格差はさらに拡大してきた。その格差は2008年をピークに減少傾向にあったものの、再び増加に転じ、輸入が輸出を上回っている。すなわち、韓国にとっての東北三省は、輸入市場としての意味合いが大きい。以下では、韓

図2 韓国の対東北三省の貿易規模の変化（1998～2011年）

単位：100万ドル



(出所) 韓国貿易協会

表2 韓国の対東北三省の輸出・輸入の推移（1998～2011年）

単位：100万ドル

年度	東北三省			遼寧省			吉林省			黒龍江省		
	輸出	輸入	輸出入	輸出	輸入	輸出入	輸出	輸入	輸出入	輸出	輸入	輸出入
1998	1,079	1,199	2,278	875	599	1,474	63	248	311	141	352	493
1999	1,255	1,102	2,357	1,026	748	1,774	84	224	308	145	130	275
2000	1,690	1,624	3,314	1,496	1,032	2,528	79	388	467	115	204	319
2001	1,648	1,749	3,397	1,395	1,084	2,479	105	441	546	148	224	372
2002	1,868	2,133	4,001	1,628	1,292	2,920	98	611	709	142	230	372
2003	2,232	2,695	4,927	1,909	1,612	3,521	136	758	894	187	325	512
2004	2,446	2,983	5,429	2,065	2,364	4,429	153	374	527	228	245	473
2005	2,563	4,073	6,636	2,165	3,067	5,232	169	634	803	229	372	601
2006	2,694	4,278	6,972	2,336	3,371	5,707	168	518	686	190	389	579
2007	2,995	6,036	9,031	2,674	4,791	7,465	207	709	916	114	536	650
2008	3,303	6,761	10,064	2,982	5,710	8,692	189	598	787	132	453	585
2009	3,066	4,209	7,275	2,752	3,380	6,132	187	427	614	127	402	529
2010	3,551	5,112	8,663	3,223	4,129	7,352	223	485	708	105	498	603
2011	4,286	6,339	10,625	3,948	5,093	9,041	266	524	790	72	722	794

(出所) 韓国貿易協会

国の対東北三省の貿易収支構造を分析する。

#### (1) 貿易収支

表2に示すように、韓国の対東北三省の貿易を牽引しているのは遼寧省である。韓国の対東北三省の貿易に占める遼寧省の割合は、1998年に既に65%を、2011年には85%を占めた。しかし、貿易収支からみると、遼寧省はほかの2省とは違う傾向にある。すなわち、1998年から2003年まで

の貿易収支は黒字であったが、2004年から赤字に転じている。これは、一部の輸入品目が急増したことに起因する。代表的なものに、酪農品、小麦粉、糖類、鉍・スラグ、肥料、火薬類・マッチ、編物、ニッケルなどがある<sup>1</sup>。一方、韓国の対吉林省、対黒龍江省の貿易のいずれもが、2000年から赤字であった。

表3は2011年における対東北三省の主要輸出国及び輸出額を示している。対東北三省貿易における韓国の輸出の順位は、

<sup>1</sup> 1998～2011年における韓国の対遼寧省輸入品目について分析した結果である。

表3 対東北三省の主要輸出国及び輸出額（2011年）

単位：100万ドル

順位	東北三省	遼寧省	吉林省	黒龍江省
第1位	ロシア (14,729)	サウジアラビア (7,873)	ドイツ (7,408)	ロシア (13,322)
第2位	ドイツ (12,351)	日本 (6,656)	日本 (2,789)	ドイツ (365)
第3位	日本 (9,776)	ドイツ (4,578)	スロバキア (1,537)	アメリカ (363)
第4位	サウジアラビア (7,873)	オーストラリア (4,486)	ハンガリー (961)	日本 (331)
第5位	オーストラリア (5,131)	アメリカ (4,246)	ブラジル (472)	オーストラリア (258)
第6位	アメリカ (5,014)	韓国 (3,948)	ベルギー (420)	フランス (165)
第7位	ブラジル (4,379)	ブラジル (3,907)	アメリカ (405)	カナダ (123)
第8位	韓国 (4,286)	アラブ首長国連邦 (2,991)	オーストラリア (387)	イタリア (82)
第9位	アラブ首長国連邦 (2,991)	イラン (2,891)	イタリア (285)	マレーシア (81)
第10位	イラン (2,891)	ベネズエラ (1,620)	チェコ (283)	韓国 (72)

(注) 2011年における韓国の対吉林省輸出は全体の第12位を占める。

(出所) 韓国貿易協会

表4 韓国の対中輸出に占める東北三省のシェア（1998～2011年）

年	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
韓国の対中輸出に占める東北三省のシェア (%)	7.2	7.3	7.3	7.0	6.5	5.2	3.9	3.3	3.0	2.9	2.9	3.0	2.6	2.7

(出所) 韓国貿易協会

その割合の低下につれて下落している。2011年の対東北三省の主要輸出国の上位3位はロシア、ドイツ、日本で、韓国は8位である。とりわけ、韓国の対遼寧省の輸出における順位は、ほかの国よりも顕著に下がっている。1998年から2009年までは2～3位を維持していたが、2011年には6位にとどまっている。これはサウジアラビアが対遼寧省の石油輸出国として浮上したことが原因で、その他の国の順位も相対的に後退している。

日本は第1位だったのが第2位に順位を下げているが、韓国は第2～3位から第6位に順位を落としている。韓国と日本は90年代後半から遼寧省への輸出を巡って激しい競争を繰り広げてきたが、現在はその構図に変化が見られる。すなわち、2008年の世界金融危機以降、対遼寧省の貿易相手国として日本よりもサウジアラビア、オーストラリア、ブラジル、アメリカの順位が上がっており、このような傾向はしばらく続くと考えられる。これは、対中国貿易国が東北三省を潜在力のある地域として捉えていることを意味し、今後の成長が期待できる証である。しかし、韓国において輸出市場としての

東北三省の魅力は喪失しつつある。実際に、韓国の対中国全体の輸出に占める対東北三省の輸出の割合は、1998年の約7.2%から下落し続け、2011年には約2.7%となった（表4）。

## (2) 貿易品目

1998年から2011年までの14年間における韓国の対東北三省の貿易品目の変化は次のとおりである。まず輸出品目の場合、韓国の対東北三省の輸出品目上位10位と対中国全体の輸出品目上位10位はほぼ類似している。対中国全体の輸出に占める割合からみると、中国国内においても東北三省に特化された輸出品目がみられる。代表的なものに、機械類、プラスチック・製品、鉄鋼などがある。機械類の輸出の割合は比較的高い水準にあるが、これは東北三省の旧工業基地改革の実施過程において、機械類の輸出が増加し、暖房などのボイラーの輸出が好調を見せているからだと思われる<sup>2</sup>。

韓国の対東北三省の機械類輸出額は、1998年の約1.5億ドルから2011年の約4.2億ドル（平均14.8%増）となった。

<sup>2</sup> KIEP中国省別動向報告「韓中国交樹立20周年の回顧と展望：東北三省」（2012. 8）

これは韓国の対東北三省輸出の年平均増加率（同期比10.8%）を上回る数値である。東北三省に占める鉄鋼の輸出の割合も高いが、これは東北三省の自動車製造業が発達したことが原因である。韓国が東北三省に輸出する鉄鋼は高級鋼材で、主に自動車用鋼板を製造するのに使われる。韓国の対東北三省の鉄鋼輸出の割合が最も大きい地域は吉林省で、同省は中国自動車製造業の重要基地である。

一方、韓国の対東北三省の輸出品目第1位は電気・電子であるが、韓国の対中国全体の輸出品目に占める同品目の割合に対して低い水準にある。電気・電子業種の韓国企業は、中国広東省に集中的に進出しており、韓国の対広東省の輸出は対中国全体の輸出のおよそ30%以上を占めている。このように、韓国の対東北三省と対広東省との比較を通じて、電気・電子業種の韓国企業の対東北三省の投資規模がほかの地域に比べてやや低いことがわかる。

次に、輸入品目の場合、韓国の対東北三省の輸入品目上位と対中国全体の輸入品目上位は異なっている。以下ではその特徴をまとめる。

第一に、韓国が中国から輸入する品目の中で、穀物、魚介類、木材・木炭などの農・水産品及び資源が東北三省に特化されている点である。穀物は1998年以来、韓国の対吉林省輸入品目上位を占めてきた。韓国の対東北三省の輸入品目のほとんどが少ない金額で、一貫性がなく、一時的なものである中で、穀物の安定した輸入が期待される。魚介類は主に遼寧省と吉林省から輸入するが、1998年以来輸入量が増加している。とりわけ、遼寧省での魚介類輸入の割合（4.5%）が韓国の対中国魚介類輸入の割合（1.1%）を大きく上回っていることから、韓国の対中国水産物輸入において東北三省は非常に重要な地域であることがわかる。これは、今後の韓・中FTA推進において、東北三省が韓国の農・水産品と競争的関係にある可能性を示唆する。

第二に、衣類と鉄鋼製品の輸入は相対的に高い割合を占めている。まず、衣類については、遼寧省に進出した韓国系衣類企業による逆輸入（buy-back）が影響したものと考えられる。遼寧省には加工貿易に携わる韓国系衣類企業が数多く進出している。この中には韓中国交樹立以前から既に投資を決めた企業もあり、ほとんどが安い人件費を求めて進出している。非編物製衣類輸入額は1998年以後増加を続け、対遼寧省輸入品目の中で1～2位を占めている。

近年、中国の人件費上昇などによって外資系企業の投資環境が悪化するにつれて、韓国系加工企業の現地撤収が切迫しているのではないかという見方もある。しかし、韓国の対東北三省の加工貿易の代表的業種である衣類製品の逆輸入が未だに増加を続けていることから、中国での生産費用が増加しても、これらの業態が短期間内に現地から撤収する事態が起こるとは考えにくい。

また、韓国の対東北三省の輸入品目の中で鉄鋼製品の割合が比較的高くなっている。これは韓国が遼寧省から鋼材を大量に輸入しているからである。1998～2011年、韓国の対中国輸入に占める鋼材の割合は13.7%で、同期における韓国の対遼寧省輸入に占める鋼材の割合は19.2%である。すなわち、韓国の対中国鉄鋼輸入において、遼寧省は非常に重要な地域であることが分かる。2011年、韓国が遼寧省から輸入した鋼材は約136万トンで、韓国は遼寧省の最も重要な鋼材輸出国であった<sup>3</sup>。韓国の対遼寧省輸入品目の中で鉄鋼は2004年から現在に至るまでずっと1位を占めている。韓・中鋼材貿易において、韓国が中国に高級鋼材を輸出し、中国から中・低級鋼材を輸入するという構造が一般的であったが、遼寧省が戦略的新興産業の一環として、高級鋼材生産及び輸出を奨励したことに伴い、安い中国産高級鋼材が韓国へ大量に輸入される現象が起きた<sup>4</sup>。これにより、韓国国内鋼材の市場価格が攪乱されることが憂慮され、このような中国産低価格製品に対抗しようとする韓国鉄鋼生産企業間の価格競争は未だに続いている<sup>5</sup>。

### （3）省別にみた貿易品目の特徴

第一に、韓国の対遼寧省の輸出入品目はHSコードの広い分野に関わっており、1998年から輸出入品目の上位は一貫して変わらなかった。ここ2年、対遼寧省の輸出品目の上位に、穀物、肥料、光学・医療機器などの品目が浮上した。一方、輸入品目においては武器の輸入が急増したという特徴がある。

第二に、韓国の対吉林省の輸出入品目は遼寧省に比べて金額が少なく、一貫性がなく、多くが一時的な品目である。その中で輸出品目の上位を占めているのは、プラスチック、鉄鋼、ボイラー・機械類などである。一方、対吉林省の輸入品目においては、1998年から現在に至るまでずっと上位を占めた品目は見当たらない。

<sup>3</sup> 2011年における遼寧省の鋼材輸出量に占める韓国の割合は約21.6%で、最も高かった。

<sup>4</sup> 遼寧省は『鉄鋼産業12・5規画』に高級鋼材の質的革新を目標として提示している。売上高対R&D投資の割合を2010年の1.1%から2015年の1.5%に上昇させ、国内外の需要に適した高級鋼材を生産するのが主な内容である。

<sup>5</sup> 『Digital Times』（2012.8.27）、「中国産の鋼材輸入が最も多く、全体に占める割合は48.9%…低価格攻勢に国内業者が苦戦」（[http://www.dt.co.kr/contents.html?article\\_no=2012082702010832748002](http://www.dt.co.kr/contents.html?article_no=2012082702010832748002)）。

表5 韓国の対東北三省の輸出入品目上位10位

輸出

単位：%

順位	中国全体		東北三省		遼寧省		吉林省		黒龍江省	
	輸出品目	%								
第1位	電気・電子 (85)	25.7	電気・電子 (85)	17.8	電気・電子 (85)	18.7	鉄鋼 (72)	16.1	ボイラー・ 機械類 (84)	31.4
第2位	光学・医療・ 精密機器 (90)	10.5	ボイラー・ 機械類 (84)	17.5	ボイラー・ 機械類 (84)	16.9	電気・電子 (85)	14.6	有機化学品 (29)	26.2
第3位	ボイラー・ 機械類 (84)	10.3	プラスチック・ 製品 (39)	8.3	プラスチック・ 製品 (39)	8.4	ボイラー・ 機械類 (84)	12.7	鉄鋼 (72)	9.8
第4位	プラスチック・ 製品 (39)	4.8	鉄鋼 (72)	7.6	鉄鋼 (72)	6.9	プラスチック・ 製品 (39)	12.0	電気・電子 (85)	8.3
第5位	有機化学品 (29)	3.3	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	6.1	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	6.7	光学・医療・ 精密機器 (90)	5.4	プラスチック・ 製品 (39)	3.3
第6位	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	3.1	光学・医療・ 精密機器 (90)	5.7	光学・医療・ 精密機器 (90)	6.0	化学工業生産品 (38)	5.2	ゴム・製品 (40)	2.4
第7位	鉄鋼 (72)	3.0	有機化学品 (29)	5.3	有機化学品 (29)	4.0	有機化学品 (29)	4.0	一般車両 (87)	2.1
第8位	一般車両 (87)	2.8	人造フィラメ ント繊維 (54)	3.0	人造フィラメ ント繊維 (54)	3.3	人造ステー ブル繊維 (55)	3.9	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	2.1
第9位	銅・製品 (74)	2.8	鉄鋼製品 (73)	2.4	鉄鋼製品 (73)	2.5	銅・製品 (74)	3.3	紙及び板紙 (48)	1.7
第10位	人造フィラメ ント繊維 (54)	2.0	人造ステー ブル繊維 (55)	2.4	一般車両 (87)	2.4	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	1.9	鉄鋼製品 (73)	1.5

輸入

順位	中国全体		東北三省		遼寧省		吉林省		黒龍江省	
	輸入品目	%	輸入品目	%	輸入品目	%	輸入品目	%	輸入品目	%
第1位	電気・電子 (85)	32.8	鉄鋼 (72)	16.0	鉄鋼 (72)	19.2	穀物 (10)	38.9	穀物 (10)	29.4
第2位	鉄鋼 (72)	13.7	非編物製衣類 (62)	10.2	非編物製衣類 (62)	12.9	電気・電子 (85)	7.1	ボイラー・ 機械類 (84)	14.9
第3位	ボイラー・ 機械類 (84)	10.2	穀物 (10)	9.9	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	9.7	鉄鋼 (72)	6.0	採油用の種・ 高麗人参 (12)	6.3
第4位	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	8.1	電気・電子 (85)	8.2	電気・電子 (85)	9	採油用の種・ 高麗人参 (12)	5.4	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	5.7
第5位	非編物製衣類 (62)	7.9	鉱物性燃料・ エネルギー (27)	8	ボイラー・ 機械類 (84)	6.8	魚介類 (03)	4.2	鉄鋼 (72)	5.2
第6位	光学・医療・ 精密機器 (90)	6.5	ボイラー・ 機械類 (84)	6.9	魚介類 (03)	4.5	木材・木炭 (44)	4.1	木材・木炭 (44)	4.6
第7位	鉄鋼製品 (73)	4.4	魚介類 (03)	4	有機化学品 (29)	3.8	野菜 (07)	3.8	編物製衣類 (61)	4.2
第8位	編物製衣類 (61)	2.3	有機化学品 (29)	3.4	編物製衣類 (61)	3.1	人造ステー ブル繊維 (55)	3	無機化学品 (28)	3.4
第9位	有機化学品 (29)	1.8	編物製衣類 (61)	3.1	船舶 (89)	2.6	調製飼料 (23)	2.8	調製飼料 (23)	2.9
第10位	魚介類 (03)	1.1	木材・木炭 (44)	2.1	鉄鋼製品 (73)	2.3	人造フィラメ ント繊維 (54)	2.5	電気・電子 (85)	2.9

(注1) 品目ごとの累計金額を基準とする。

(注2) %値は、該当地域の輸出総額及び輸入総額に占める該当品目の割合を表す。

(出所) 韓国貿易協会

第三に、韓国の対黒龍江省の輸出品目の中で1998年からずっと上位を占めていたのは、ボイラー・機械類のみである。韓国の対黒龍江省の輸入品目においては、一回のみの取引品目が相対的に多く、1998年から輸入上位品目を占めたものは、穀物だけであった。ここ2年の輸入品目上位として浮上しているフィルム・写真用材料、コルク・わらも、これまでの傾向からみて、一回のみの取引に終わる可能性が大きい。

### 2.3. 韓国と東北三省の貿易における構造的変化

1998年からの韓国と東北三省の貿易推移をみると、両者間貿易に構造的な変化が生じていることがわかる。

まず、東北三省は韓国の対中国輸出市場としての競争力を失いかけている。とりわけ、韓国の対東北三省貿易の主要マーケットである遼寧省で、このような現象が顕著に現れた。国交樹立初期の遼寧省は、韓国の対中国主要輸出市場であったが、現在は対中主要輸入市場に変わってきた。

このような構造的な変化に対応して、韓国が再び遼寧省を輸出市場とする可能性を大きく二つ取り上げる。すなわち、対遼寧省の投資拡大と貿易品目の多様化である。

第一に、投資拡大は重要である。韓国の対中国輸出の傾向をみると、投資が輸出を牽引してきている。既存の韓国企業が東北三省への進出を行う際には、労働集約型産業や重化学工業に限定されてきたが、これからはサービス業や新産業に対する投資を拡大する必要がある。例えば、バイオ、新エネルギー、親環境産業及び金融、物流、観光などのサービス産業への投資拡大が、関連品目の輸出増大の効果をもたらすことができる。

第二に、輸出品目を多様化しなければならない。現在、遼寧省を輸出市場とする主要競争国と韓国の対遼寧省の輸出品目はほぼ同じである。これは韓国が遼寧省で比較優位を得にくい状況にあることを意味する。とりわけ、ドイツ、日本は対遼寧省の主要輸出国であり、韓国の輸出品目と類似している。そのため、韓国は電気・電子、ボイラー・機

表6 韓国の対東北三省の業種別投資額の推移

単位：100万ドル、%

年度	中国全体				東北三省			
	製造業		サービス業		製造業		サービス業	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
1992	118	83.2	22	15.7	30	99.6	0	0.0
1993	250	86.0	36	12.3	79	91.1	5	5.8
1994	582	87.0	65	9.7	93	80.1	13	11.1
1995	708	77.3	176	19.2	102	64.2	52	33.1
1996	738	71.8	225	21.9	119	63.3	19	10.3
1997	518	64.1	243	30.0	82	76.1	24	22.5
1992～1997	2,914	75.6	766	19.9	504	73.4	114	16.6
1998	599	87.6	65	9.4	34	65.6	11	20.7
1999	296	84.5	37	10.6	42	72.1	9	14.9
2000	580	74.2	184	23.5	57	67.5	19	22.7
1998～2000	1,475	81.2	285	15.7	132	68.4	38	19.8
2001	605	92.2	48	7.3	54	81.1	12	17.7
2002	977	87.8	100	9.0	49	55.9	20	22.8
2003	1,589	85.2	256	13.7	97	74.2	22	16.6
2004	2,172	90.4	181	7.5	194	75.1	39	15.1
2005	2,295	80.3	471	16.5	156	65.7	59	25.0
2006	2,909	84.3	409	11.9	152	65.5	52	22.7
2007	3,807	69.2	1,493	27.1	342	57.2	234	39.2
2008	2,326	60.7	1,221	31.9	309	53.8	196	34.2
2001～2008	16,680	76.9	4,180	19.3	1,352	61.9	635	29.1
2009	1,697	78.2	396	18.3	140	49.8	106	38.0
2010	2,740	75.7	833	23.0	129	20.8	471	76.1
2011	2,768	77.4	742	20.8	242	40.4	355	59.4
2009～2011	7,206	76.9	1,971	21.0	510	34.0	933	62.3
1992～2011	28,274	77.0	7,202	19.6	2,498	54.8	1,720	37.7

(注) 1997年のアジア金融危機、2001年の中国のWTO加入、2008年の世界金融危機を境に全期間を4期間に分けている。

(出所) 輸出入銀行、海外投資統計DBより整理

械類の品目を巡って、ドイツ、日本と競争的關係に置かれている。韓国が輸出品目を多様化しない限り、これらの国々との競争力が低下している局面を打破することは困難であろう。

韓国と東北三省間貿易の構造的変化から予測できることは、今後の韓国の対東北三省の輸出品目に占めるサービス業及び内需市場をターゲットにした割合が増えていくという点である。これは韓国の対東北三省の投資業種が製造業からサービス業へと転換しているからである。

韓国の対東北三省の投資に占める製造業の割合は2008年まで50%以上を占めていたが、その後急落し、2009年以後は34%までに減少した。一方、2009～2011年の3年間における韓国の対東北三省の投資に占めるサービス業の割合は約62%まで急上昇した。このように、韓国の対東北三省の投資業種が既存の製造業からサービス業へと転換しているのは、韓国企業が東北三省を輸出加工基地ではなく、内需市場として捉えているからである<sup>6</sup>。投資業種が変化していることは、今後の対東北三省貿易品目の多様化が期待できる理由の一つであり、韓国と東北三省の経済協力を推進するにあたって、十分に潜在力があることを示している。

### 3. おわりに

本稿では、韓中国交樹立後の韓国の対東北三省の貿易推移及び構造的変化を概観した。1998年から韓国の対東北三省の貿易規模は拡大してきたものの、貿易収支は赤字を呈していた。また、韓国の対中国輸出市場としての東北三省の地位も低下してきた。韓国の対東北三省貿易における輸出の割合が減少するにつれて、対東北三省の輸出市場での韓国の地位も揺れている。

国交樹立当初、韓国と日本は東北三省の主要貿易相手国であったが、現在は西欧諸国も東北三省を潜在力のある貿易相手として捉え、積極的に進出を図っている。とりわけ、ドイツや日本の動きが活発である中、韓国がこれらの国よりも先に比較優位を獲得するには、対東北三省の投資拡大と輸出品目の多様化が必要である。

国交樹立以来、韓国の対東北三省の貿易品目は大きく変わってきた。対中国の貿易品目と比較した結果、東北三省に特化された品目がみられ、主要輸出品目には機械類と鉄鋼、主要輸入品目には穀物、衣類などが含まれる。

韓国の対東北三省の貿易品目の推移を省別にみると、地域ごとに異なる特徴がある。国交樹立から現在に至るまで、対遼寧省の輸出品目に一貫性があるのに対して、対吉林

省、対黒龍江省の貿易品目は一貫性がなく、ほとんどが少ない金額で、一時的なものであった。これは韓国の対東北三省の貿易が遼寧省に大きく依存していることを示唆している。以上から、大きく二つの構造的変化が考えられる。

一つ目は、東北三省が韓国の対中国輸出市場としての競争力を失いかけている点である。この問題を解決するには、投資拡大と貿易品目の多様化を考える必要がある。東北三省の中でも遼寧省は最大貿易相手であり、遼寧省において韓国と日本は完全なる競争的關係にある。そのため、輸出品目を多様化することが韓国にとって不可欠である。

二つ目は、韓国の対東北三省の輸出構造が高度化されている点である。国交樹立当初と比較した場合、中間材の輸出の割合が減少し、資本財と最終消費財の輸出の割合が大きく増加した。これは韓国企業の東北内需市場への進出が可能であり、韓国と東北三省との経済協力の可能性があることを示している。以下では、韓国の対東北三省貿易を更に活性化するための対策をまとめておく。

第一に、韓国の対東北三省の貿易品目の中で、地域別に特化された品目の活用を極大化しなければならない。これは、韓国と東北三省の貿易を増大させることにつながる。例えば、穀物輸入において東北三省は韓国の対中国貿易の主要貿易相手である。このように、特化された輸入品目を活用し、韓国と東北三省が協力するための新たなきっかけを見い出さなければならない。具体的には、穀物冷凍輸送チェーンのような事業分野が成長する可能性も大きい。

第二に、東北三省を輸入市場として積極的に活用することである。すなわち、農・水産品、木材などの対中国資源輸入先として、東北三省の潜在力を認識する必要がある。この場合、これまでに韓国が重視しなかった吉林省や黒龍江省との協力を深めることができる。穀物と木材・木炭、野菜、採油用の種、高麗人参のいずれもが吉林省と黒龍江省に特化されている品目で、これらの品目は韓国の対中国貿易品目に占める割合も高い。したがって、韓国が東北三省との協力を拡大するための重要な役割が期待できる。

第三に、韓国の対吉林省と対黒龍江省の貿易拡大を長期的に模索する必要がある。その実現可能性は、吉林省と黒龍江省の物流環境改善に関わっている。韓国の対東北三省貿易が遼寧省に偏っていた理由の一つが、港への接近性である。韓国企業にとって、東北地域への進出は輸出加工貿易が主で、輸出するための物流条件は非常に重要である。一方、吉林省と黒龍江省には海に出る港がないため、両省との貿易関係が疎遠になっていた。しかし、東北三省の消

<sup>6</sup> KIEP中国省別動向報告「韓中国交樹立20周年の回顧と展望：東北三省」（2012. 8）

費市場が拡大し、内需市場への進出が可能となった場合、韓国の対吉林省と対黒龍江省の貿易関係も異なる局面を迎えられるだろう。一般的に、東北三省は中国国内の他地域よりも住民の消費性向が高いことが知られている。遼寧省の瀋陽、大連のみならず、吉林省の長春、黒龍江省のハルビンなど、東北三省の拠点都市を中心に消費市場が形成されており、内需市場への進出を準備しなければならない。

最後に、東北三省を考える視点として、多様なフレームが必要である。韓国の政策当局は、東北三省を北朝鮮との経済協力を推進するための手段として扱う傾向が強い。もちろん、東北三省の地政学的意義は、単純な経済学的意味を越えている。東北三省は北東アジア主要国が集まる中心にあり、韓国、日本、ロシア、北朝鮮などに囲まれている

地政学的に重要な地域である。したがって、政策立案者らが東北三省を考える際に、政治的フレームを維持することは非常に重要である。しかし、政治・外交的重大さに劣らず、東北三省が経済的に急成長を遂げていることも事実である。この点では、東北三省が架け橋としての役割を果たせる環境、すなわち、韓国がロシア、モンゴルなど北東アジア諸国との経済協力を推進するための環境が整っていることを意味する。近年、韓国の大企業が東北三省への進出を積極的に検討しているが、これは東北三省経済の発展の可能性が大きいからである。東北三省は自主的に既存の潜在力を直視し、韓中国交樹立20周年を機に、韓国との新たな貿易関係を構築していくべきである。

[韓国語原稿をERINAにて翻訳]

## *The Trends in Trade Relations and the Structural Changes between the ROK and China's Northeast*

LIM, Minkyung

Researcher, China Regional and Provincial Research Group, Center for Regional Economic Studies, The Korea Institute for International Economic Policy (KIEP)

### **Summary**

The bilateral trade volume between the ROK and China's Northeast has gradually increased since 1992. In terms of trade relations, however, structural changes have appeared which this paper mainly focuses on. First, China's Northeast is losing its attraction as an export partner vis-à-vis the ROK. This trend appears notably in Liaoning Province, the largest economy among the three northeastern provinces. Second, ROK investment in the service sector in China's Northeast has accelerated. From 2009 to 2011, the total rate of ROK investment in the service sector in China's Northeast reached 62.3%, far surpassing its rate for manufacturing industry (34.0%). The transition of the ROK's main investment sectors in the region shows that there still exists potential for further economic cooperation between the ROK and China's Northeast. Lastly, this article recommends policy suggestions to stimulate trade relations in the region. The ROK needs to recognize the position of China's Northeast as an import market and utilize items, such as grains, in which China's Northeast specializes. Also, other trade partners in China's Northeast—Jilin Province and Heilongjiang Province—need to be paid more attention by the ROK government. Finally, the ROK authorities need to diversify policy angles regarding China's Northeast. As China's Northeast is surrounded by key stakeholders, such as Russia, the DPRK and Japan—significant political actors in Northeast Asia—policymakers are often trapped in the political dimension and overlook the ample room for expanding domestic markets in the region. It is a time when a new framework is required to open up a new phase in economic relations between the two sides.

[Translated by ERINA]